



わくわく学習部会



しらやま朝市



6年生が、しらやま朝市にボランティア活動として参加しました。10月7日にしらやま朝市の中心となって活動している3名の役員さんから、しらやま朝市の活動への思いや願いを聞き、自分たちにできるボランティアについて考えました。子どもたちは、11月8日のしらやま朝市に向けて手作りのマグネット、肩たたき棒、ブレスレット、ティッシュカバーなどの品物を作って準備をしました。また、園芸委員会が育てた温州みかんも販売しました。12月13日には、収穫したお米や育てた花の苗も販売しました。今年、新型コロナウイルス感染症予防のため、恒例のふれあいバザーが開催できませんでしたが、6年生は校外で自分たちの店を出し貴重な経験をすることができました。

僕は白山朝市に参加して楽しかったことよかったです。2つあります。1つ目は販売です。後半に販売を担当した僕はたくさんの朝市に来てくれた人への呼びこみをして、品物をお客様に楽しさを売りました。2つ目は、たくさんの人が買いに来てくれたことです。お年寄りや小さい子、友達や家族や先生方が、気に入った物をたくさん買ってくれました。心をこめて品物を用意してよかったと思いました。また白山朝市に積極的に参加したいです。

私は朝市の品物作りをとてもがんばりました。私の担当は、かたたき棒です。ちらしで約30本使うかたたき棒が1本完成します。かたたき棒を10本作るのには、この時間がかかりました。1日担当のみんなと協力して約30本作ることにできました。30本もできると、いいね、たのびとてうれしかったです。朝市当日は、受け付けの係をします。ポケットティッシュをわたすと「ありがとう」などおたが言葉も言ってくれたのでうれしかったです。またボランティアで参加したいです。



わくわく学習部会

子どもたちを楽しい本の世界へ



ファンタジーの皆さんは、年間を通して行事や学習に関連した本の読み聞かせをしています。人権月間には、各学年に応じて平和について考える本を選定し、読み聞かせをしました。また、12月の1年生とその保護者対象の家庭教育学級では、大きな手作り紙芝居「あたまにかきのき」など、趣向を凝らした読み聞かせがあり、子どもたちはわくわくしながら物語の世界を楽しみました。



世界の国を知ろう



4年生は、はくざんっ子学習「世界の国を知ろう」で、韓国、カナダ、フィリピン、中国の4つの国について講師の方々からお話を聞きました。韓国の授業では、国際交流員の方の文化や生活についてのお話の後、ハングル文字で自分たちの名前を書いて名刺交換をしました。フィリピンやカナダの授業では、歴史・文化・自然などについてたくさんの質問をしました。中国の授業では、日本とは違うお正月の話やお金の単位の話など興味深いお話がありました。また、中国で一番難しい漢字を書くことにも挑戦してみました。子どもたちは、それぞれの国の生活や文化を知り、日本との違いに気付き、それぞれの良さを考えました。世界に目を向ける貴重な時間となりました。



この間はありがとうございました。
 フィリピンには、いろいろな種類のバナナがあることが分かりました。それに、たくさんのお土産があることも分かりました。昼ごはんは、13:00から始まる聞いてびっくりしました。日本からフィリピンは飛行機で4〜5時間なので意外に近いなと思いました。フィリピンに行きたいと思いました。

私は、ALTの先生のお話を聞いて、カナダはメープルシロップが有名なのが分かりました。メープルシロップを雪にかけて食べるのがいいなと思いました。カナダは暑いと思っただけ、カナダは半年くらい冬と聞いてびっくりしました。カナダのお話を聞かせていただきありがとうございました。

私がきょうみをもった所や驚いた所は、韓国の家庭では、2つれいぞうこがあって、1つはキムチ用のれいぞうこ、2つ目はふつうのれいぞうこに分けていることです。そして、小学校の給食に毎日、キムチがでることもびっくりしました。私は、もとかい国のことを知りたいと思いました。
 모토니 아오이より

中国は学校に九月に入学して、七月に卒業するものが分かりました。中国の面積は約九百六十万キロメートルで日本の二十五倍もあることを知りました。お正月に水ぎょうごを食べたり、ばく竹や花火をしたり、えんぎのいい言葉をはたり、えんぎのいい食べ物を食べたりすることを知っています。お正月にはいろいろなことをするんだなと思いました。



消防団来校!



3年生の社会科の授業で、地域の消防団が来てくれました。消防団は、火事を消すこと以外にも、災害時の防災や救助活動などたくさんの事を行っていることを知りました。また、実際にホースを繋いでの消火活動を見せてもらったり、消防団員さんに手伝ってもらいながら放水の体験をしたりしました。子どもたちは、お話を聞いたり体験したりすることで消防団の仕事をより具体的に理解することができました。将来、入団したいという児童も多かったです。

